

Free5GCのUE/RAN疑似プログラムについて

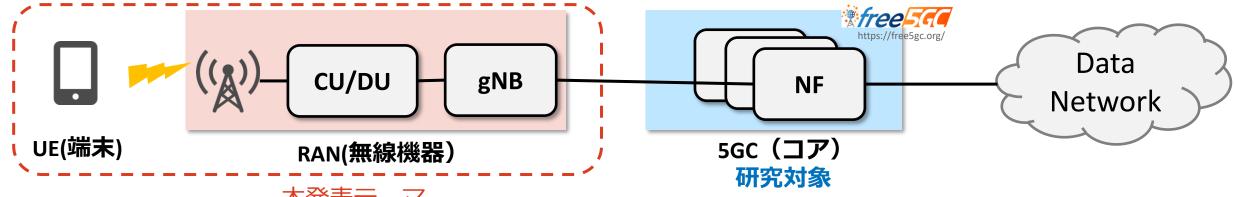
NTT ネットワークサービスシステム研究所 上醉尾 一真

2021年2月4日 Open Mobile Network Infra Meetup #1

本日の発表内容



- ロ 5GCの試験に必要なUE/RAN疑似プログラムの開発についてご紹介
- ロ 取り組み背景
- 手軽に5GCを試したい
 - › UE/RANがないと5GCを試せない。
 - 職場の検証環境は試験機を利用。(リソースが限られているので自由には使えない...)
- 5GCの中身を理解したい
 - > 5G-SAは開発過渡期で不具合多いためトラブル時に解析が必要。
 - プロトコルと実装の理解を深めたい



本発表テーマ (UE/RAN疑似プログラム)

UE/RAN疑似ソフトウェアについて



- LTEと比較して5Gのソフトウェアはまだまだ開発過渡期
- 以下のOSSの開発が活発(個人開発?)
 - > hhorai/gnbsim (https://github.com/hhorai/gnbsim)
 - > aligungr/ueransim (https://github.com/aligungr/UERANSIM)

□ Free5GCに同梱(free5gc/test/ueRanEmulator)

- Free5GCの動作確認を行うためのテストプログラム (v3.0.4で追加)
- 様々なパラメータが固定値で装置登録/疑似トラフィック送信のみ可能
- Free5GCの実装なので5GCの理解にも役立ちそう

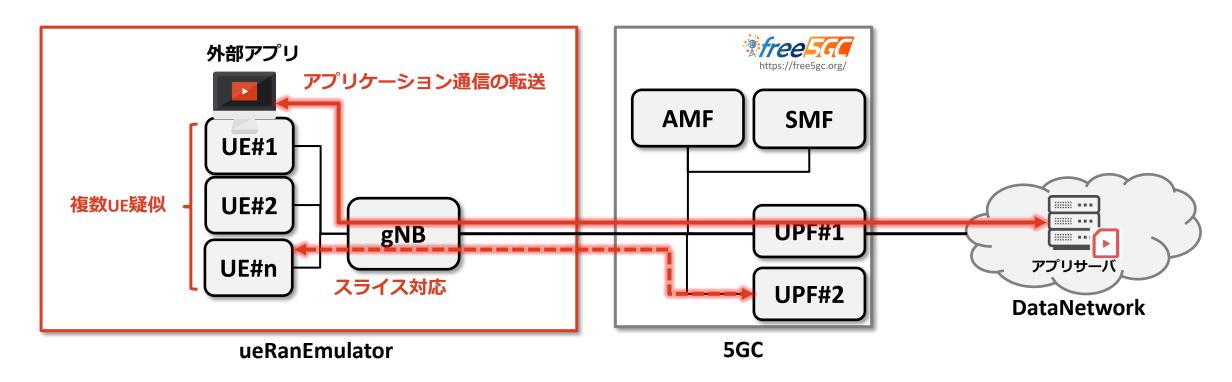
本発表ではueRanEmulatorを改良

改良方針

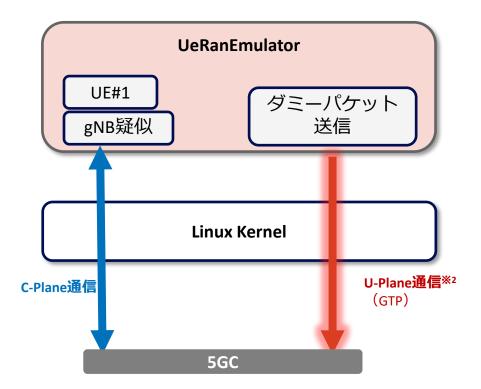


ロ 5GCの負荷試験/スライス試験ができるような機能を実現

- > アタッチ/デタッチ、PDUセッション確立
- > アプリケーション通信の転送
- › 複数UE疑似(10~100台)
- › スライス対応、SST/SD/DNNに応じた振り分け



ueRanEmulatorの実装概要



もともとの実装

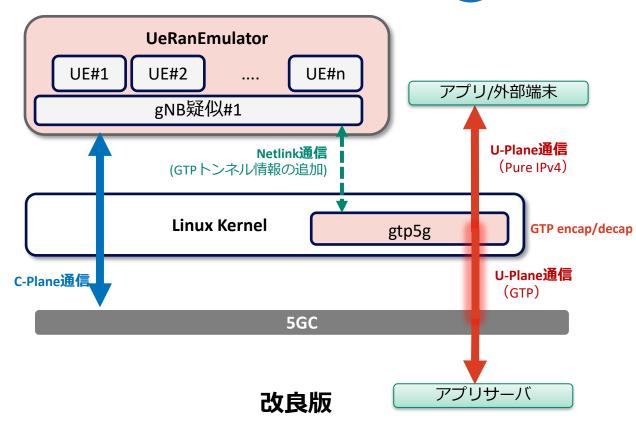
できること

- 1台のUE/RAN(gNB)を疑似して5GCにアタッチ
- U-Plane疑似通信(送信のみ)
- 一部パラメータ認証情報(IMSI/K等)をConfigで指定可能

※1 一部固定値のため、5GCと不整合が発生して通信に失敗する場合あり。

※2 指定した宛先へのUDPパケット送信のみ可能。





できること

- 複数gNB/UE疑似して5GCヘアタッチ/デタッチ
- **・ 外部アプリのトラフィック転送**(上下通信)

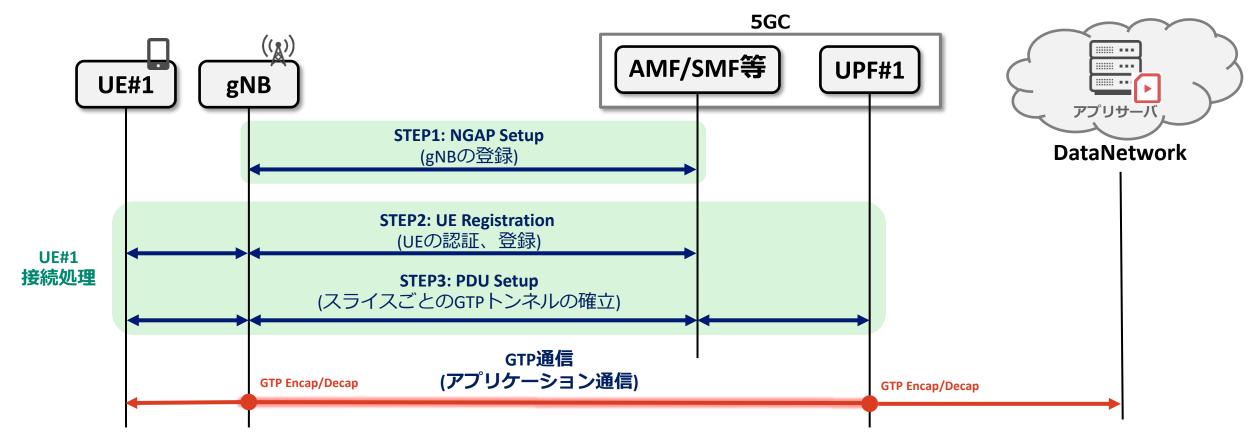
ポイント

- パラメータのハードコーディングを削除(ネゴシエーション時に取得)
- U-Plane処理はFree5GC UPFと同じカーネルモジュールを利用(gtp5g)

UE/RAN接続シーケンス(概略)



- ロ UE/gNBの接続は大まかに3つのステップで処理される。
 - > Step1: NGAPセットアップ
 - › Step2: UE認証、5GCへの登録
 - › Step3: PDUセッション確立



UE認証処理 (概略図)



- ロ UEは事前登録情報に加えて動的生成される情報で認証する。
- ロ 認証情報を正しく使わないと、以降の処理でMACエラーが発生する。



UE認証情報(事前登録)

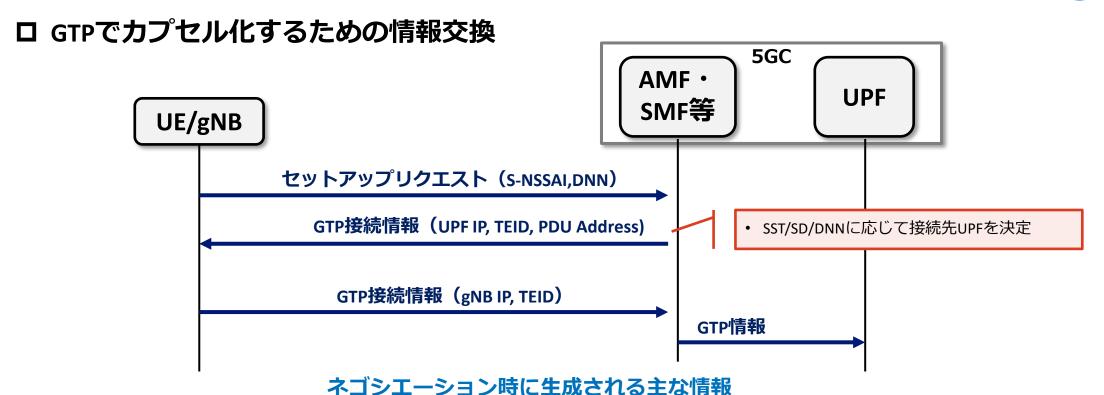
パラメータ	概要
PLMN	事業者識別子
IMSI	PLMN+ユーザ識別子
К	暗号鍵
OP/OPc	オペレーターコード

認証処理で生成される主な情報

パラメータ	概要
SQN	シーケンス番号
RAND	乱数
MAC	メッセージ認証コード
RES	ユーザ応答
AUTN	SQN/AMF/MACで生成

PDUセッション(GTPトンネル確立) (概略図)





パラ:	メータ	概要
5GCが払い出し	GTP-TEID	GTP通信を識別するためのID
	UPF IP	GTP通信で利用するUPFのIPアドレス
	PDU Address	UEに払い出されるIPアドレス
UE/gNBが通知	gNB IP	GTP通信で利用するgNBのIPアドレス
	GTP-TEID	GTP通信を識別するためのID
	S-NSSAI	スライス識別子(SST/SDで生成)

メッセージ処理 - 1



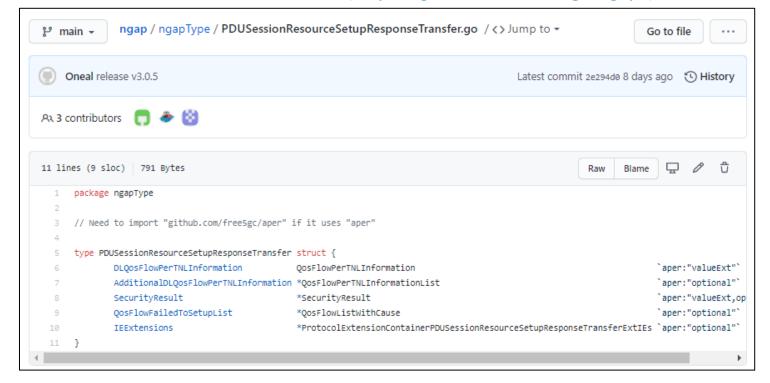
ロ UE/RAN~5GC間はNG ApplicationProtocolで通信される

- › protocollEsというリストでメッセージが格納される。
- > NGAPで使われるメッセージはfree5gc/ngapのライブラリで定義されている。
- › IEをパースしてNGAPライブラリでメッセージ内容を参照、作成する。
- バイトオーダの違いに注意が必要

NGAPパケットキャプチャ

NG Application Protocol VNGAP-PDU: successfulOutcome (1) V successfulOutcome procedureCode: id-PDUSessionResourceSetup (29) criticality: reject (0) Value VPDUSessionResourceSetupResponse VprotocolIEs: 3 items Item 0: id-AMF-UE-NGAP-ID Item 1: id-RAN-UE-NGAP-ID Item 2: id-PDUSessionResourceSetupListSURes

NGAPライブラリ (https://github.com/free5gc/ngap/)



メッセージ処理 - 2



ロメッセージは暗号化/ASN.1エンコードの処理が必要

- › free5gc/nas, free5gc/aperを利用して処理する。
- › キャプチャ時はNEAOを設定する。(非暗号化)

NGAPパケットキャプチャ(暗号化状態)

NGAPパケットキャプチャ (NEAO)

```
Plain NAS 5GS Message
   Extended protocol discriminator: 5G session management messages (46)
   PDU session identity: PDU session identity value 10 (10)
   Procedure transaction identity: 0
   Message type: PDU session establishment accept (0xc2)
   0001 .... = Selected SSC mode: SSC mode 1 (1)
   PDU session type - Selected PDU session type
   QoS rules - Authorized QoS rules
   Session-AMBR
   SGSM cause
   PDU address
   S-NSSAI
   QoS flow descriptions - Authorized
   Extended protocol configuration options
   DNN
```

メッセージ処理例

```
// NAS PDUを複合、デコードして、PDU Addressを取得
pkg := []byte(suReq.PDUSessionNASPDU.Value)
m, err := test.NASDecode(&ueinfo.ue, nas.GetSecurityHeaderType(pkg), pkg)
if m.GmmHeader.GetMessageType() == nas.MsgTypeDLNASTransport {
    dlpayload := nasMessage.NewPDUSessionEstablishmentAccept(0)
    buff := uintToByte(m.DLNASTransport.PayloadContainer.GetPayloadContainerContents())
    dlpayload.DecodePDUSessionEstablishmentAccept(&buff)
    tmpIP := dlpayload.PDUAddress.GetPDUAddressInformation()
    ueinfo.gtpinfo.ueIP = net.IPv4(byte(tmpIP[0]), byte(tmpIP[1]), byte(tmpIP[2]), byte(tmpIP[3]))
}
```

GTPカプセル化処理



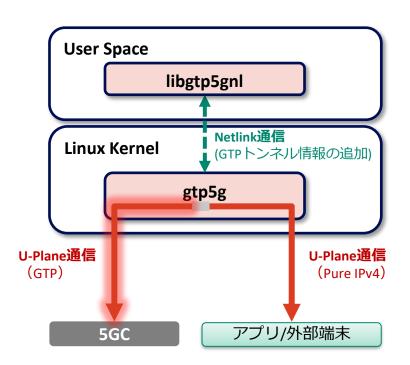
ロ GTPカーネルモジュール (https://github.com/PrinzOwO/gtp5g)

> gtp5g : Free5GCで使われているGTP処理のカーネルモジュール。

UPFモード、RANモードの二つの動作モードで動く。

> libgtp5gnl:アプリケーションからgtp5gヘエントリ追加等を行うためのライブラリ。

CLIツール(libgtp5gnl-tool)も同梱されているので、gtp5g単体を試すことも可能。



主な機能

- ・ GTPカプセル化/デカプセル化
 - UPFモード:宛先IPをもとにカプセル化
 - RANモード:送信元IPをもとにカプセル化
- フィルタ機能
 - GTP転送対象をフィルタを設定可能 (動作未確認)

```
struct ip filter rule {
                            // permit only
  uint8 t action;
  uint8 t direction;
                             // in/out
                            // number or "ip" which is not used for matching
  uint8 t proto;
  struct in addr src, smask;
                                 // ip addr or "any" -> 0.0.0.0
                                  // ip addr or "any" -> 0.0.0.0
  struct in_addr dest, dmask;
                             // Conut for sport
  int sport num;
  struct range *sport;
                               // one value, range or not existed -> [0, 0]
                              // Counter for dport
  int dport num;
                               // one value, range or not existed -> [0, 0]
  struct range *dport;
                              https://github.com/PrinzOwO/gtp5g/blob/master/gtp5g.c
```

解析・不具合切り分け - 1



- ロキャプチャとデバッグログをひたすら確認
- ロソースコードにデバッグ用の出力を追加して深追いする
- ロ3GPP仕様書を理解するのは大変だけど、キャプチャとソースを追うと少し理解しやすい

Free5GCのデバッグログ(例)

2021-01-27T08:57:18Z [INFO][LIB][3GPP] suciPart [suci 0 208 93 0 0 0 0000000001]

2021-01-27T08:57:18Z [TRAC][UDM][UEAU] supi conversion => imsi-20893000000001

2021-01-27T08:57:18Z [ERRO][UDM][UEAU] opStr length is 0

2021-01-27T08:57:18Z [TRAC][UDM][UEAU] sqnStr 16f3b3f70fcc

2021-01-27T08:57:18Z [TRAC][UDM][UEAU] sqn [22 243 179 247 15 204]

AUTN = f471f8d89f608000eada1eb1cb7c8b72

認証値の検証ツール

認証エラー時は外部ツールで何が間違っているか、計算処理が正しいかを検証

landslide troubleshooting tool: Spirent

(https://support.spirent.com/SpirentCSC/SC KnowledgeView?Id=SOL14108)

解析・不具合切り分け - 2



カーネルモジュールの切り分け (簡易な方法)

- 気になるところにログ出力を追加
- > 単純な方法だが、着信しているが転送されない、TEID・IPがおかしいなどの切り分けをすぐできる。

◆ログ出力処理

◆ログ出カ例

```
# echo 'file gtp5g.c +p' > /sys/kernel/debug/dynamic_debug/control

# tail -f /var/log/kern.log

Jan 27 11:16:38 free5gc kernel: [70369.181825] upfgtp: ip4_find_route:

Jan 27 11:16:38 free5gc kernel: [70369.181826] upfgtp: gtp_dev name:upfgtp

Jan 27 11:16:38 free5gc kernel: [70369.181826] upfgtp: dst dev name:eth1

Jan 27 11:16:38 free5gc kernel: [70369.181827] upfgtp: gtp5g_xmit_skb_ipv4

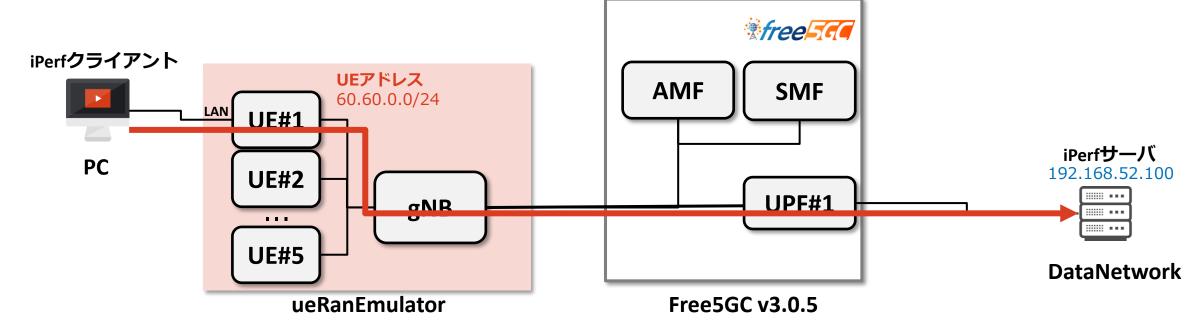
Jan 27 11:16:38 free5gc kernel: [70369.181828] upfgtp: gtp -> IP src: 192.168.52.100 dst: 60.60.0.2
```

デモ



手順

- 1. UE5台接続
 - UE#1はLAN側の通信(iPerf)を転送
 - UE#2~5はダミー通信実施
- 2. GUIで接続を確認
- 3. iPerf実行
- 4. UEデタッチ



今後・議論ポイント



今後の取り組み

- 手軽に構築、試験ができるようにコンテナ化、設定項目の拡張を検討中
- Free5GC v3.0.5で5GCの機能拡張がされたので、スライス試験をいろいろ実施予定
- N3IWFのクライアントも検討したい
- 他の5GCとの接続

聞きたいこと

- 試験機やOSSのエミュレータを利用していますか?自作していますか?
- どういう試験をしている(したい)か?(大量UE接続、アタッチデタッチ繰り返しなど)
- Ueransim/gnbsimについて教えてほしい

悩み事・その他

- そもそもgtp5gってなに?Linux標準搭載のgtpと何が違うのか?
- コンテナ化したいけど外部トラフィックのルーティングをどうしようか。
- UE接続台数が増えるとFree5GCが落ちる

参考資料



本資料では各種シーケンスを省略して記載しています。 正確な仕様は3GPPの仕様書等を参照してください。

■ 3GPP: https://www.3gpp.org/

☐ Free5GC: https://free5gc.org/